

四 半 期 報 告 書

(第45期第3四半期)

自 平成24年7月1日

至 平成24年9月30日

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

(E02644)

第45期第3四半期（自平成24年7月1日 至平成24年9月30日）

四 半 期 報 告 書

- 本書は金融商品取引法第24条の4の7第1項に基づく四半期報告書を同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織（EDINET）を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	3
第2 事業の状況	4
1 事業等のリスク	4
2 経営上の重要な契約等	4
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	4
第3 提出会社の状況	8
1 株式等の状況	8
2 役員の状況	9
第4 経理の状況	10
1 四半期連結財務諸表	11
2 その他	20
第二部 提出会社の保証会社等の情報	21

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月13日
【四半期会計期間】	第45期第3四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)
【会社名】	キャノンマーケティングジャパン株式会社
【英訳名】	Canon Marketing Japan Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 川崎正己
【本店の所在の場所】	東京都港区港南2丁目16番6号
【電話番号】	(03)6719-9111
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員経理本部長 柴崎洋
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南2丁目16番6号
【電話番号】	(03)6719-9072
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員経理本部長 柴崎洋
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第3四半期 連結累計期間	第45期 第3四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自平成23年1月1日 至平成23年9月30日	自平成24年1月1日 至平成24年9月30日	自平成23年1月1日 至平成23年12月31日
売上高 (百万円)	450,414	492,172	632,418
経常利益 (百万円)	4,434	10,980	10,668
四半期(当期)純利益 (百万円)	2,395	5,801	6,763
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,407	5,804	6,732
純資産額 (百万円)	246,718	254,078	251,307
総資産額 (百万円)	439,164	449,064	447,765
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	17.46	42.26	49.30
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	56.1	56.5	56.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,662	26,882	8,715
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△6,658	△13,458	△12,107
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△3,306	△6,474	△3,811
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	103,273	109,321	102,372

回次	第44期 第3四半期 連結会計期間	第45期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.57	8.10

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第44期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済を振り返りますと、震災からの復興需要や設備投資の持ち直し等により、企業を取り巻く環境は緩やかな回復基調で推移したものの、一方で欧州債務危機や新興国経済の陰りによる世界経済の減速や円高等を背景として、回復の動きに足踏みも見られました。

このような経済環境のもと、当社グループは、新製品の拡販やさまざまなソリューション提案等に積極的に努め、売上拡大に取り組みました。また、昨年当社の連結子会社となったキヤノンライフケアソリューションズ株式会社（旧：株式会社エルクコーポレーション）や昭和情報機器株式会社、日本オセ株式会社が売上の増加に貢献したことにより、売上高は4,921億72百万円（前年同期比9.3%増）と、前年同期に比べ増収となりました。

一方、利益面につきましては、売上総利益率の改善や構造改革及び継続的なコストダウンの推進により、営業利益は98億98百万円（前年同期比283.6%増）、経常利益は109億80百万円（前年同期比147.6%増）、四半期純利益は58億1百万円（前年同期比142.2%増）となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

なお、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しておりますので、下記の前年同期比につきましては、前年同期の数値を変更後の報告セグメントの区分に組替えた数値との比較となっております。

ビジネスソリューション

MFP（複合機）の国内市場は、前年同期における震災後の商品供給不足の反動による出荷増や設備投資の着実な回復により、出荷台数は前年同期に比べ増加しました。当社は、オフィスMFPの「imageRUNNER ADVANCE」シリーズにおいて、カラー機で普及モデルの「C5000」シリーズやコンパクトモデルの「C2000」シリーズを中心とした新規顧客の開拓等、積極的な拡販に注力しました。また、「imageRUNNER ADVANCE」シリーズの“第2世代”として8月に投入した普及モデルの「C5200」シリーズ等も堅調に推移した結果、オフィスMFPは前年同期を上回る出荷台数を達成しました。一方、商業印刷市場向けのプロダクションMFPでは、キヤノン製の「imagePRESS」シリーズ等に加え、オセ社（オランダ）の業務用プリンターの販売活動を推進しました。これらの結果、MFP全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

レーザープリンターの国内市場は、カラー機は堅調だったものの、モノクロ機が低調に推移し、出荷台数は前年同期を下回りました。当社は、モノクロ機が買い替えサイクルの長期化等により伸び悩んだものの、カラー機でA3機「Satera LBP9600C」を中心に大型商談の獲得もあり順調に出荷台数を伸ばしたことにより、売上は前年同期を上回りました。一方、トナーカートリッジは前年同期並みの売上で推移しました。

大判インクジェットプリンターは、A1ノビ対応の「imagePROGRAF iPF650」等を牽引役として、CAD（コンピュータ支援設計）やポスター作成市場等を中心に拡販に努めた結果、売上は順調に推移しました。

オフィスMFPの保守サービスは、プリント需要は堅調に推移したものの、保守料金の単価下落が継続したことにより、売上は前年同期を若干下回りました。なお、当分野では引き続き、オフィスMFPの遠隔監視システム「ネットアイ」の登録拡充等、さまざまなコストダウンに取り組みました。また、中小オフィス向けIT支援サービス「HOME」の導入件数拡大を図りました。

グループ会社のキヤノンシステムアンドサポート株式会社は、新規顧客の開拓等によりオフィスMFPやレーザープリンターが大幅に出荷台数を伸ばすとともに、ITソリューション部門も順調に推移した結果、売上は前年同期を上回りました。また、昨年12月に連結子会社となった昭和情報機器株式会社は、主力の漢字プリンターシステムや広告制作プリンター等が堅調に推移しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は2,583億47百万円（前年同期比7.4%増）、セグメント利益は63億25百万円（前年同期比233.0%）となりました。

ITソリューション

ITソリューションの国内市場は、業種によりばらつきはあるものの、企業の設備投資やソフトウェア投資が増加傾向となり、引き続き回復基調で推移しました。当社グループも、SI（システムインテグレーション）サービス事業を中心に売上が順調に推移しました。また、収益性に関しても、生産性の向上やコスト削減等を進め大幅に改善しました。

（SIサービス事業）

SIサービス事業は、お客さまの要望に合わせた個別システムの開発と、プロダクトをベースとするシステム開発を行っております。当第3四半期連結累計期間は、金融機関や製造業向けを中心に個別システム開発案件が増加するとともに、統合基幹システム等の製造ソリューションや医療ソリューションの案件が増加しました。また、7月発売のMRシステム※案件の受注もあったこと等により、売上は前年同期を上回りました。

（ITインフラ・サービス事業）

ITインフラ・サービス事業は、基盤系商品や構築サービス、クラウドサービス・システム運用サービス・データセンターサービス・BPO（業務の外部委託）サービスといったアウトソーシングサービスを提供しております。当第3四半期連結累計期間は、BPOサービス等が堅調に推移したものの、前年同期に震災対応案件が増加した反動により、売上は前年同期並みとなりました。

（エンベデット事業）

エンベデット事業は、製品組込みソフトウェアの開発を行っております。当第3四半期連結累計期間は、キヤノングループ向けに加え、自動車関連産業を中心とした外販案件が堅調に推移したこと等により、売上は前年同期を上回りました。

（プロダクト事業）

プロダクト事業は、IT関連のハードウェア、ソフトウェア及びライセンスの販売を行っております。当第3四半期連結累計期間は、主力のビジネスPCが減少したものの、大企業向けソフトウェアライセンスやセキュリティー製品、メモリー関連の新規商材、タブレット等のスマートデバイスの販売が堅調に推移し、売上は前年同期を上回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は985億31百万円（前年同期比6.0%増）、セグメント損失は73百万円（前年同期は26億23百万円のセグメント損失）となりました。

※MRとは「Mixed Reality」の略で、現実世界と実寸大の3次元CGをリアルタイムに違和感なく融合させ、CGがあたかも目の前の現実世界に存在しているかのような臨場感を生み出す映像技術のことです。設計やデザインを行う際、実物を製作する代わりにMRシステムによる3次元CGを用いることで、開発期間の短縮やコスト削減につなげることができます。

コンシューマイメージング

（デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ）

レンズ交換式デジタルカメラの国内市場は、震災やタイの洪水の影響による減少から回復し、顧客層の広がりや買い替え等により再び拡大基調となっており、出荷台数は前年同期を上回りました。当社は、「EOS Kiss X5」や「EOS Kiss X6i」等のエントリーモデルが圧倒的なシェアを獲得するとともに、「EOS 60D」や「EOS 5D Mark III」等のミドルクラスも好調に推移し、売上は前年同期を大幅に上回りました。また、9月下旬に発売したミラーレスカメラ「EOS M」も好調な立ち上がりとなりました。交換レンズもカメラ本体同様に、売上は前年同期を上回りました。

コンパクトデジタルカメラの国内市場は、市況の低迷により出荷台数は前年同期を下回りました。当社は、超薄型光学8倍ズームの「IXY 600F」やワイヤレスで画像を転送できるWi-Fi機能をさらに進化させた8月発売の新製品「IXY 430F」を中心に拡販に努めました。また、ブランド力強化と平均単価アップを目的に、「PowerShot G1 X」や「PowerShot S100」のプレミアムモデルのマーケティングを展開し、高い評価を獲得しました。しかしながら、市況の低迷の影響を受け、売上は前年同期を下回りました。

デジタルビデオカメラの国内市場は、ハイビジョンモデルの需要が増加したこと等により、出荷台数は前年同期を上回りました。当社は、Wi-Fi機能搭載の「iVIS HF R32」を6月に発売する等、ラインアップを強化し拡販に取り組みましたが、中級機価格帯の市場縮小等により、売上は前年同期を下回りました。

（インクジェットプリンター）

インクジェットプリンターの国内市場は、個人需要が堅調に推移したことにより、出荷台数は前年同期を上回りました。当社は、タイの洪水の影響による商品供給の影響が第1四半期まで残ったものの、「PIXUS MG6230」を中心に

堅調に推移しました。しかしながら、昨年9月であった新製品の発売が10月となったことにより、売上は前年同期を下回りました。また、インカートリッジはタイの洪水の影響による本体出荷台数の減少により、前年同期の売上を若干下回りました。

(業務用映像機器)

従来、産業機器セグメントに属していた放送用TVレンズや情報カメラで構成される業務用映像機器部門を、1月より当セグメントに移管しました。当部門は、放送局における設備投資が好調に推移したため、放送用TVレンズや情報カメラを中心に、売上は前年同期を大幅に上回りました。また、1月より発売した映像制作用のカメラやレンズで構成される「CINEMA EOS SYSTEM」の売上も順調に推移しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は1,302億97百万円(前年同期比6.4%増)、セグメント利益は40億94百万円(前年同期比20.5%増)となりました。

産業機器

産業機器(半導体製造関連機器等)は、ウエハー欠陥検査装置等の検査・計測装置が順調に推移しましたが、その他の製造装置が国内半導体関連の投資減少の影響を大きく受け低調に推移したため、売上は前年同期を下回りました。なお、アジア進出への基盤強化を図るため、3月1日付で台湾に半導体製造関連機器等の販売・サービスを行う現地法人、台湾佳能先進科技股份有限公司(Canon Advanced Technologies Taiwan, Inc.)を設立しました。

医療機器は、デジタルラジオグラフィ(X線デジタル撮影装置)が装置メーカーとの協業強化や買い換え需要の喚起等により出荷台数を伸ばしましたが、厳しい価格競争により、売上は横ばいで推移しました。眼科機器は眼底カメラの市場縮小等により、売上は前年同期を下回りました。超音波診断装置は順調に推移しました。また、キヤノンライフケアソリューションズ株式会社(旧:株式会社エルクコーポレーション)が昨年6月に連結子会社となったことにより、画像診断・健診・開業医への支援等を行う医療システム事業や予防医療に関わる製品を提案・提供するヘルスケア事業等が加わり、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

なお、11月1日付で株式会社エルクコーポレーションの社名をキヤノンライフケアソリューションズ株式会社に変更したとともに、当社グループの医療機器事業の営業・保守サービス部門を同社に統合しました。これにより、当事業の営業・保守サービス体制を一本化し、販売から修理、サポートまでの一貫体制を構築することで、営業力の強化と顧客満足度の向上を図ります。

これらの結果、当セグメントの売上高は241億54百万円(前年同期比66.1%増)、セグメント損失は7億39百万円(前年同期は45百万円のセグメント利益)となりました。

(注) 各セグメント別の売上高は、外部顧客への売上高にセグメント間の内部売上高又は振替高を加算したものであります。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」をご参照ください。

(2) キャッシュフローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ69億48百万円増加して、1,093億21百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローの資金の増加は268億82百万円となりました。これは税金等調整前四半期純利益106億49百万円に加え、主に、減価償却費119億13百万円、売上債権の減少163億11百万円による資金の増加と、仕入債務の減少92億54百万円、たな卸資産の増加63億47百万円による資金の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローの資金の減少は134億58百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出131億34百万円、無形固定資産の取得による支出21億31百万円による資金の減少によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローの資金の減少は64億74百万円となりました。これは主に、配当金の支払27億49百万円、短期借入金の純増減額19億79百万円、社債の償還による支出11億56百万円による資金の減少によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、4億65百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	299,500,000
計	299,500,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	151,079,972	151,079,972	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	151,079,972	151,079,972	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	—	151,079,972	—	73,303	—	85,198

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 13,743,800	—	単元株式数100株
完全議決権株式（その他）	普通株式 137,002,900	1,370,029	同上
単元未満株式	普通株式 333,272	—	—
発行済株式総数	151,079,972	—	—
総株主の議決権	—	1,370,029	—

(注) 1. 証券保管振替機構名義の株式が「完全議決権株式（その他）」の欄に4,500株（議決権45個）、
「単元未満株式」の欄に89株含まれております。
2. 「単元未満株式」の欄には当社所有の自己株式35株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
(自己保有株式) キャノンマーケティング ジャパン(株)	東京都港区港南 2-16-6	13,743,800	—	13,743,800	9.10
計	—	13,743,800	—	13,743,800	9.10

(注) 当第3四半期会計期間末日（平成24年9月30日）現在の自己株式は13,744,345株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,303	23,399
受取手形及び売掛金	123,027	106,419
有価証券	83,219	86,129
商品及び製品	24,701	31,045
仕掛品	438	512
原材料及び貯蔵品	1,193	1,437
繰延税金資産	4,410	4,432
短期貸付金	40,028	40,007
その他	5,770	7,010
貸倒引当金	△215	△232
流動資産合計	301,878	300,162
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	40,233	48,985
機械装置及び運搬具（純額）	11	11
工具、器具及び備品（純額）	3,831	4,239
レンタル資産（純額）	6,963	8,198
土地	36,832	36,831
リース資産（純額）	1,255	941
建設仮勘定	2,799	1,060
有形固定資産合計	91,928	100,268
無形固定資産		
のれん	524	73
ソフトウェア	19,257	16,282
リース資産	253	188
施設利用権	317	317
その他	82	61
無形固定資産合計	20,435	16,923
投資その他の資産		
投資有価証券	4,084	3,933
長期貸付金	30	26
繰延税金資産	19,020	18,938
差入保証金	7,857	6,307
その他	2,977	3,018
貸倒引当金	△446	△514
投資その他の資産合計	33,523	31,710
固定資産合計	145,886	148,901
資産合計	447,765	449,064

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	100,046	90,792
短期借入金	1,616	166
1年内償還予定の社債	1,115	—
リース債務	604	553
未払費用	21,469	19,722
未払法人税等	1,685	3,889
未払消費税等	2,208	2,222
賞与引当金	3,365	11,920
役員賞与引当金	37	35
製品保証引当金	726	875
受注損失引当金	255	60
その他	17,958	19,924
流動負債合計	151,090	150,162
固定負債		
社債	60	—
長期借入金	564	35
リース債務	1,152	796
繰延税金負債	639	604
再評価に係る繰延税金負債	31	31
退職給付引当金	37,259	37,724
役員退職慰労引当金	906	984
永年勤続慰労引当金	918	811
その他	3,835	3,836
固定負債合計	45,367	44,823
負債合計	196,457	194,985
純資産の部		
株主資本		
資本金	73,303	73,303
資本剰余金	82,819	82,819
利益剰余金	116,933	119,846
自己株式	△22,189	△21,890
株主資本合計	250,866	254,078
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△61	△72
為替換算調整勘定	△133	△138
その他の包括利益累計額合計	△195	△210
少数株主持分	636	210
純資産合計	251,307	254,078
負債純資産合計	447,765	449,064

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
売上高	450,414	492,172
売上原価	291,540	316,630
売上総利益	158,874	175,542
販売費及び一般管理費	156,293	165,643
営業利益	2,580	9,898
営業外収益		
受取利息	312	214
受取配当金	66	71
受取保険金	617	635
償却債権取立益	475	—
その他	779	486
営業外収益合計	2,251	1,407
営業外費用		
支払利息	114	65
その他	283	259
営業外費用合計	398	325
経常利益	4,434	10,980
特別利益		
固定資産売却益	1	2
負ののれん発生益	2,393	179
投資有価証券売却益	0	62
その他	0	0
特別利益合計	2,394	244
特別損失		
固定資産除売却損	309	373
減損損失	204	0
災害による損失	979	—
事務所移転費用	164	132
投資有価証券評価損	298	40
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,173	—
その他	241	29
特別損失合計	3,371	576
税金等調整前四半期純利益	3,457	10,649
法人税等	1,060	4,831
少数株主損益調整前四半期純利益	2,396	5,817
少数株主利益	1	16
四半期純利益	2,395	5,801

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,396	5,817
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	37	△7
繰延ヘッジ損益	—	0
為替換算調整勘定	△27	△5
その他の包括利益合計	10	△12
四半期包括利益	2,407	5,804
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,408	5,785
少数株主に係る四半期包括利益	△1	19

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,457	10,649
減価償却費	11,145	11,913
減損損失	204	0
のれん償却額	685	450
負ののれん発生益	△2,393	△179
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△158	85
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△493	531
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△102	77
賞与引当金の増減額 (△は減少)	8,637	8,554
受取利息及び受取配当金	△378	△285
支払利息	114	65
有形固定資産除売却損益 (△は益)	246	249
災害損失	979	—
売上債権の増減額 (△は増加)	18,971	16,311
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△6,552	△6,347
仕入債務の増減額 (△は減少)	△17,262	△9,254
その他	△7,074	△3,730
小計	10,027	29,092
利息及び配当金の受取額	386	282
利息の支払額	△114	△66
法人税等の支払額	△6,637	△2,426
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,662	26,882
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却による収入	1,000	19
有形固定資産の取得による支出	△6,737	△13,134
有形固定資産の売却による収入	1,611	33
無形固定資産の取得による支出	△2,806	△2,131
投資有価証券の取得による支出	△17	△8
投資有価証券の売却による収入	164	138
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△290	—
短期貸付金の増減額 (△は増加)	4	23
定期預金の増減額 (△は増加)	1,000	△47
その他	△588	1,648
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,658	△13,458

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の償還による支出	—	△1,156
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△103	△1,979
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△388	△477
自己株式の取得による支出	△1	△103
配当金の支払額	△2,749	△2,749
少数株主への配当金の支払額	△64	△8
その他	1	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,306	△6,474
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△6,301	6,948
現金及び現金同等物の期首残高	109,575	102,372
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 103,273	※ 109,321

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

【追加情報】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)	第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
保証債務 (1) リース代金支払の連帯保証 取引先2社…128百万円 (2) 従業員の住宅資金銀行借入金の連帯保証 …85百万円	保証債務 (1) リース代金支払の連帯保証 取引先2社…94百万円 (2) 従業員の住宅資金銀行借入金の連帯保証 …70百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金 18,273 百万円 定期預金(3ヵ月超) △100 百万円 有価証券(3ヶ月以内) 85,100 百万円 現金及び現金同等物 103,273 百万円	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金 23,399 百万円 定期預金(3ヵ月超) △178 百万円 有価証券(3ヶ月以内) 86,100 百万円 現金及び現金同等物 109,321 百万円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年3月29日 定時株主総会	普通株式	1,371	10	平成22年12月31日	平成23年3月30日	利益剰余金
平成23年7月21日 取締役会	普通株式	1,371	10	平成23年6月30日	平成23年8月26日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月28日 定時株主総会	普通株式	1,371	10	平成23年12月31日	平成24年3月29日	利益剰余金
平成24年7月24日 取締役会	普通株式	1,373	10	平成24年6月30日	平成24年8月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 2
	ビジネス ソリューション	ITソリュ ーション	コンス ーマイメ ージング	産業機器				
売上高								
外部顧客への売上高	240,595	72,661	122,442	14,542	172	450,414	—	450,414
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	20,317	—	—	—	20,317	△20,317	—
計	240,595	92,979	122,442	14,542	172	470,732	△20,317	450,414
セグメント利益又はセグ メント損失(△)	1,899	△2,623	3,396	45	△137	2,580	—	2,580

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 2
	ビジネス ソリューション	ITソリュ ーション	コンス ーマイメ ージング	産業機器				
売上高								
外部顧客への売上高	258,347	79,218	130,297	24,154	154	492,172	—	492,172
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	19,313	—	—	—	19,313	△19,313	—
計	258,347	98,531	130,297	24,154	154	511,486	△19,313	492,172
セグメント利益又はセグ メント損失(△)	6,325	△73	4,094	△739	291	9,898	—	9,898

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、「産業機器」に含めておりました放送用TVレンズや情報カメラで構成される業務用映像機器部門につきましては、映画制作市場へ本格的に参入し、映像制作用レンズ・カメラ等のより広い領域での事業展開を図ることに伴い、第1四半期連結会計期間より、「コンスーマイメージング」に報告セグメントを変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	17円46銭	42円26銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	2,395	5,801
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,395	5,801
普通株式の期中平均株式数(千株)	137,184	137,279

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当第3四半期連結会計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)
(自己株式の取得) 当社は、平成24年10月23日開催の取締役会において、会社法第459条第1項の規定による定款の定めに基づき、自己株式の取得について次のとおり決議いたしました。 1 自己株式の取得を行う理由 資本効率の向上を図るとともに機動的な資本戦略に備えるため。 2 取得の方法 東京証券取引所における市場買付け 3 取得する株式の種類及び総数 普通株式 5,300,000株(上限) 4 株式の取得価額の総額 5,000百万円(上限) 5 取得する期間 平成24年10月24日から平成24年12月20日まで

2【その他】

平成24年7月24日開催の取締役会において、平成24年6月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、第45期中間配当金として1株につき10円00銭(総額1,373百万円)を支払うことを決議しております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月12日

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 矢内 訓 光 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 香 山 良 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 中 清 人 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているキヤノンマーケティングジャパン株式会社の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、キヤノンマーケティングジャパン株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月13日
【会社名】	キャノンマーケティングジャパン株式会社
【英訳名】	Canon Marketing Japan Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 川崎 正己
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都港区港南2丁目16番6号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長である川崎正己は、当社の第45期第3四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2【特記事項】

特記すべき事項はありません。